

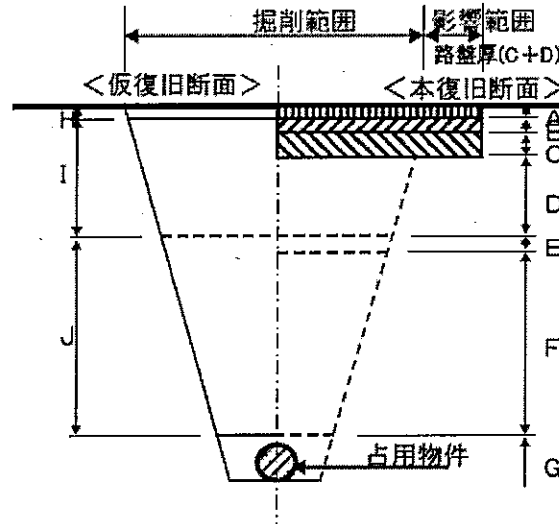
路面復旧工法

◎仮復旧工法(占有者施工)

記号	名称	材料・工法
H	表層	密粒度アスコン(最大粒径20mm)
I	路盤	クラッシャーラン 修正CBR \geq 30
J	路床	良質土(切込碎石・山土等)
G	路体	締め固め可能土

大型車交通量による舗装種別の区分

舗装種別		大型車交通量(台/日・方向)
A号	1号	T<100
	2号	100 \leq T<250
B号	3号	250 \leq T<1,000
	4号	1,000 \leq T<3,000
	5号	3,000 \leq T



◎本復旧工法(占有者または道路管理者の施工)

記号	名称	材料・工法
A	表層	車道:密粒度アスコン(最大粒径20mm)
		歩道8号:細粒度アスコン(最大粒径13mm)
		歩道9号:開粒度アスコン(最大粒径13mm)
B	基層	粗粒度アスコン(最大粒径20mm)
C	上層路盤	粒度調整碎石 修正CBR \geq 80
D	下層路盤	クラッシャーラン 修正CBR \geq 30
E	フィルター層	砂 0.074mmふるい通過量6%以下
F	路床	良質土(切込碎石・山土等) 修正CBR \geq 20
G	路体	締め固め可能土

◎仮復旧工事・本復旧工事 寸法表(上記基本図による)

種別	復旧工法		仮復旧 (単位:cm)				本復旧 (単位:cm)										
	仮復旧	本復旧	道路現況	記号	H	I	J	H+I+J	A	B	A+B	C	D	C+D	E	F	A+B+C+D+E+F
その他 1-2級	A号	1号	アスファルトコンクリート舗装		3.0	27.0	100.0以上	130.0以上	5.0	—	5.0	10.0	15.0	25.0	—	100.0以上	130.0以上
	B号	2号	アスファルトコンクリート舗装		3.0	42.0	100.0以上	145.0以上	5.0	—	5.0	10.0	30.0	40.0	—	100.0以上	145.0以上
		3号	アスファルトコンクリート舗装		3.0	47.0	100.0以上	150.0以上	5.0	5.0	10.0	10.0	30.0	40.0	—	100.0以上	150.0以上
		4号	アスファルトコンクリート舗装		3.0	55.0	100.0以上	158.0以上	5.0	13.0	18.0	20.0	20.0	40.0	—	100.0以上	158.0以上
		5号	アスファルトコンクリート舗装		3.0	72.0	100.0以上	175.0以上	5.0	20.0	25.0	15.0	35.0	50.0	—	100.0以上	175.0以上
		6号	セメントコンクリート舗装		3.0	37.0	100.0以上	140.0以上	施工箇所の実情にあわせ、別途指示する。								
	7号	砂利道							—	—	—	—	—	20.0	—	100.0以上	120.0以上
	8号	歩道(アスファルトコンクリート)							3.0	—	3.0	—	10.0	10.0	—	47.0以上	60.0以上
	9号	歩道(透水性アスファルトコンクリート)							3.0	—	3.0	—	10.0	10.0	5.0	42.0以上	60.0以上
	10号	歩道(歩板材舗装…タイル・平板等)							施工箇所の実情にあわせ、別途指示する。								

- 付記 1 この表に示した復旧断面は標準であり、地質または道路の構造等により例外もある。このような場合は、道路管理者の指示する断面で復旧すること。
 2 歩道舗装の復旧は次の場合に9号(透水性舗装)を用いることとする。①既存舗装が透水性舗装の場合 ②既存舗装の種別にかかわらず、歩道全幅を復旧する場合
 3 本表は設計期間10年の道路の場合であり、設計期間を20年とする幹線道路の場合は別途指示する。
 4 現況車道が排水性舗装の場合の本復旧断面は、表層は開粒度アスコン、また基層は密粒度アスコンとし、断面構成については別途指示する。
 5 占有物件が下層路盤の下面から1.0mよりも浅い位置となる場合は、所定の路床が構成できないことから、別途協議する。
 6 仮復旧の際の表層(H)は道路の交通事情により上表よりも厚くすることが出来る。
 7 路床に用いる良質土の目安は修正CBR20以上とするが、個別の計算により設計CBR6以上が確保できる場合はこの限りでない。